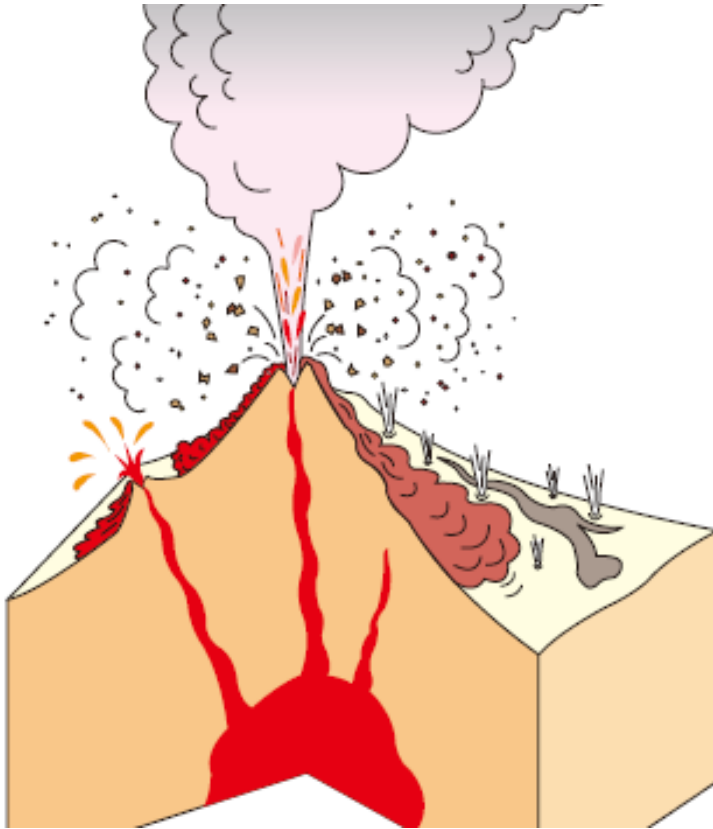


火山によって発生する災害

年 組 番 名前（ ）

◆火山の構造と火山災害



雲仙岳の火砕流（平成6年6月24日）



伊豆大島噴火の溶岩流（昭和61年11月19日）

（気象庁ホームページ「主な火山災害」より引用）

火山災害	概 要
噴石 （ふんせき）	噴火（ふんか）によって大小の岩や石が吹き飛ばされ、人命をうばい建物等を破壊（はかい）する。
火砕流 （かさいりゅう）	高温の火山灰や岩塊（がんかい）、空気や水蒸気が一体となって、急速度で山を流れ下り、通過した地域を破壊・埋没（まいぼつ）させる。
溶岩流 （ようがんりゅう）	噴出（ふんしゅつ）したマグマが高温の液体のまま地面を流れ下る。通過した地域の建物、道路、農耕地、森林、集落を焼失、埋没させる。
火山れき	噴石のうち小さなものを「火山れき」と呼ぶ。軽く小さいために遠くまで飛び、人や建物、動物、車などを傷つける。
火山灰	噴石のうち直径2ミリ以下のものを火山灰と呼ぶ。時には数百キロメートルという広域に降下・堆積（たいせき）する。健康被害や農作物・交通機関への影響など、様々な影響をもたらす。
火山ガス	マグマに溶けている二酸化硫黄（いおう）、硫化（りゅうか）水素などの様々な成分が、気体（ガス）となって放出される。人間や動植物に有害なガスの場合もある。
融雪型 火山泥流 （ゆうせつがたかざんでいりゅう）	雪の積もった山を火砕流が流れる時に、熱によって雪がとけ大量の水となり、土石流と同様に、水と土砂と岩石が高速で流れ落ちるために大きな被害が発生する。

◆今日の授業で知ったことや思ったこと、考えたことを書いてみよう。